



2011年 8月17日

公式規則公報 (第14号)

公式規則公報は、日本アメリカンフットボール協会制定の公式規則書・公式規則解説書等の記載内容の解説、例示、変更を行うものである。今後とも必要に応じて適宜発行される。

本文書は、「2011～2012 アメリカンフットボール公式規則・公式規則解説書」の内容の変更（5項目）、および解説（1項目）を公報するものです。本公報の内容は、即時に適用します。

記

1. 変更項目

(下線部が変更箇所)

No	規則・解説	篇-章-条	変更前	変更後
1	公 式 規 則	2-27-4-c	制限を受けるラインマン: 制限を受けるラインマンとは、インテリア・ラインマンまたは 50-79 の番号を付けているラインマンで、膝またはその下へ手を降ろした選手である。	制限を受けるラインマン: 制限を受けるラインマンとは、インテリア・ラインマンまたは 50-79 の番号を付けているラインマンで、 <u>膝より下へ手を降ろした選手である。</u>
2		3-4-4-c	10秒減算を含む罰則が施行された後は、レフリーのシグナルで計時は開始される。10秒減算を含まない罰則が施行された後は、スナップで計時は開始される。	10秒減算を含む罰則が施行された後は、レフリーのシグナルで計時は開始される。10秒減算が施行されなかった場合は、スナップで計時は開始される。 【注】10秒減算が施行されなかった場合、距離罰則等の他の罰則が施行されてもされなくても、スナップで計時は開始される。
3		9-1-6 例外 例外 2-(c)	スナップ時にブロッキング・ゾーンをサイドラインまで延長させたゾーンの中に位置する守備側のプレーヤーは、バックワード・パスを受けようとする位置にいる攻撃側のプレーヤーへの場合を除き、ブロッキング・ゾーンが消滅するまで(参照:2-3-6-b)腰より下のブロックをしてもよい。	守備側のプレーヤーは、ボールがニュートラル・ゾーンを5ヤード越えるまでの間は、 <u>腰より下のブロックをしてもよい。</u> ただし、バックワード・パスを受けようとする位置にいる攻撃側のプレーヤーに対して、腰より下のブロックをしてはならない。また、 <u>ボールあるいはボールキャリアに向かおうとする場合を除き、ニュートラル・ゾーンを越えた位置にいる A チームの有資格レシーバーに対して、腰より下のブロックをしてはならない。</u>

No	規則・解説	篇-章-条	変更前	変更後
4	公 式 規 則 解 説	A.R 9-1-6-IV	フォーメーションの左側に位置していたランカーA1は、味方からボールを受けた後、右側へ深くリバースをした。スプリットエンドA2は、フォーメーションの右側でスナッパーから10ヤード離れた位置にいた。A2は、守備側のエンドB2を、右側のサイドラインの方向へブロックした。A2のブロックは、腰より下のブロックであり、ニュートラル・ゾーンの手前あるいは1ヤード越えた地点で行われた。 判定:不正なブロック。罰則-15ヤード。反則がニュートラル・ゾーンの手前で起きた場合は、プレビース・スポットから施行される。(参照:2-3-2)	フォーメーションの左側に位置していたランカーA1は、味方からボールを受けた後、右側へ深くリバースをした。スプリットエンドA2は、フォーメーションの右側でスナッパーから10ヤード離れた位置にいた。A2は、守備側のエンドB2を、 <u>左側</u> のサイドラインの方向へブロックした。A2のブロックは、腰より下のブロックであり、ニュートラル・ゾーンの手前あるいは1ヤード越えた地点で行われた。 判定:不正なブロック。罰則-15ヤード。反則がニュートラル・ゾーンの手前で起きた場合は、プレビース・スポットから施行される。(参照:2-3-2)
5		A.R 9-1-6-V	タックル・ボックスから右側に5ヤード離れた位置にいたウイングバックA1が、スナップの前にボールの方向へモーションした。スナップ時、A1はスナッパーの真後ろにいた。スナップ後にA1は、B2を左のサイドラインの方向へ腰より下のブロックをした。 判定:不正なブロック。(参照:2-3-2)	タックル・ボックスから右側に5ヤード離れた位置にいたウイングバックA1が、スナップの前にボールの方向へモーションした。スナップ時、A1はスナッパーの真後ろにいた。スナップ後にA1は、B2を左のサイドラインの方向へ腰より下のブロックをした。 判定: <u>正当な</u> ブロック。(参照:2-3-2)

## 2. 解説項目

- 9-1-6-例外2-(a)において規定されている「近いサイドライン」について、以下のとおりとする。
  - ・スナップ時にフォーメーションの左側(ボールより左側)に位置しているプレーヤーにとっての「近いサイドライン」とは、左側のサイドラインであり、同様にフォーメーションの右側(ボールより右側)に位置しているプレーヤーにとっての「近いサイドライン」とは、右側のサイドラインである。
  - ・モーションしているプレーヤーについても、スナップ時のプレーヤーの位置により同様の判断を行う。ボールがスナップされる前に、モーションをしているプレーヤーがスナッパーの真後ろを通り過ぎた場合、そのプレーヤーの「近いサイドライン」は変更される。
  - ・スナップ時にスナッパーの真後ろの位置でモーションをしているプレーヤーについては、モーションにより向かって行っている方向のサイドラインが、「近いサイドライン」である。スナッパーの真後ろで移動をせずに足踏みしてモーションを続けているプレーヤーについては、静止しなければ向かった方向のサイドラインを「近いサイドライン」とみなす。

以上